



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第9号
(8月10日～8月23日)



平成29年8月9日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

成らせ過ぎ目立つ! 見直し摘果の徹底を!!
つがるの落果防止剤(ストッポール液剤)の散布は8月15~20日ころ!!!

I 要約

7月下旬の降雨により、果実肥大の伸びは良好であり、8月1日現在での果実肥大は、概ね平年並みから平年を上回っている。

王林を中心に、全般に成らせすぎの樹や枝が多い。果実品質や翌年の花芽への影響が懸念されるので、今一度着果量を点検し、見直し摘果を徹底する。

依然として、黒星病の被害果が見られるので、摘み取り処分を徹底する。

「8月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月14~15日ころに行う。

つがるの熟度の進みは、ほぼ平年並と見込まれることから、つがるの落果防止剤(ストッポール液剤)の散布は、8月15~20日ころに行う。

モモシクイガの産卵が続いているので、無袋栽培では毎回防除剤を使用する。

8月は気温が高いと予報されているので、果実の日焼けを起こさないよう着色手入れの際は注意する。

台風等による強風に備え、風害防止対策に万全を期す。

II りんご生産情報

1 果実肥大、作業の進み、病害虫の動き

(1) 果実肥大

7月下旬の降雨により、果実肥大の伸びは良好であり、8月1日現在での果実肥大は、概ね平年並みから平年を上回っている。

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	7.0	7.1	6.5
	平 年	7.0	6.9	6.1
	前 年	7.2	7.1	6.2
	平年比	100	103	107
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	7.6	6.8	6.5
	平 年	7.2	6.8	6.0
	前 年	7.5	7.0	6.1
	平年比	106	100	108
板柳町高増 (西北地域県民局)	本 年	7.1	6.8	6.5
	平 年	7.2	7.1	6.0
	前 年	7.5	7.6	6.3
	平年比	99	96	108
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	7.0	6.4	6.1
	平 年	7.0	6.6	5.9
	前 年	7.3	6.6	6.2
	平年比	100	97	103

※各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) つがるの果実熟度

8月5日現在、黒石では平年と比較して、硬度及び着色指数は高く、糖度は同程度、酸度及びヨード反応は低い。総合的に見て、熟度の進みはほぼ平年並と見込まれる。

つがる (無袋) の熟度の進み

(調査月日：黒石8月5日)

地 域	年	果 重 (g)	着 色	硬 度 (ホント [°])	糖 度 (brix%)	酸 度 (g/100ml)	ヨード [°] 反 応
黒 石 (りんご研究所)	本年	175	0.4	18.8	10.3	0.322	4.9
	平年	173	0.3	17.9	10.3	0.386	5.0
	前年	173	0.6	18.5	10.4	0.323	4.8

注1 着 色：指数0～5 大きい数値ほど着色良好

2 ヨード[°]反応：指数0～5 小さい数値ほどでんぷんが少ない

3 平年は参考値で2002年～2016年までの15か年平均。

(3) 作業の進み (8月7日現在)

見直し摘果、支柱入れ、徒長枝整理が行われている。

(4) 病害虫の動き

(8月7日現在 りんご研究所)

斑点落葉病	感染継続中 無防除の県予察圃での新梢葉の発病葉率 (スターキング) (本年: 黒石 8月4日 6.0%、平年: 黒石 8月5日 17.2%)
褐斑病	無防除の県予察圃で発生増加中
黒星病	葉上病斑停滞中
モモシクイガ	成虫の羽化及び産卵継続中
ハダニ類	リンゴハダニ、ナミハダニとも卵～成虫が混在して葉を加害中
リンゴコカクモン ハマキ	第1世代幼虫主体
キンモンホソガ	第3世代幼虫主体 (第2世代成虫50%羽化日 本年: 黒石 7月26日、平年: 黒石 7月27日)
クワコナカイガラ ムシ	第1世代幼虫主体

2 作業の重点

(1) 見直し摘果

成らせすぎの樹や枝が目立ち、王林等の品種では全般に着果量が多い。果実品質や翌年の花芽への影響が懸念されるので、今一度着果量を点検し、見直し摘果を徹底する。

見直しに当たっては、ふじや王林等では4頂芽に1果、つがるやジョナゴールドでは3.5頂芽に1果残すことを目安に、肥大の劣るものや果形の悪いもの、黒星病など病害虫被害果を中心に摘果する。なお、摘み取った病害虫被害果は適正に処分する。

(2) 薬剤散布

「8月半ば」の薬剤散布は、8月14～15日ころに行う。

散布予定日に降雨が予想される場合には事前散布に徹する。なお、薬剤の散布に当たっては、収穫前日数や年間使用回数などに注意する。

10回目：「8月半ば」の薬剤散布

地域	時期	薬剤名と倍数	散布量 /10a
黒石 弘前 三戸	8月14日 ～15日ころ	ベフラン液剤25	1,500倍
		又はアリエッティC水和剤	800倍
		又はダイパワー水和剤	1,000倍
		又はナリアWDG	2,000倍

①フリントフロアブル25、ストロビードライフロアブル、ナリアWDGは同じ系統で薬剤耐性発達の懸念があるため、各薬剤の使用は年1回以内とし、合わせて年2回以内の使用とする。

②ベフラン液剤25やアリエッティC水和剤は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

(3) 黒星病対策

園地によっては、王林等に小斑点の果実病斑やつる（果柄）の病斑が見られる。発生が見られる場合は、果実やつる、葉の被害を摘み取りを徹底し、土中に埋めるなど適正に処分する。

また、発生の多い園地では、秋季感染を防ぐため9月15日頃にすす斑病・すす点病の特別散布で使用する薬剤の中から、オーソサイド水和剤800倍又はストライド顆粒水和剤1500倍を選択することとし、薬剤の準備等を進める。

(4) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。ポリオキシシンAL水和剤は、薬剤耐性の恐れがあるので、連続散布を避ける。

(5) 炭疽病対策

りんご園周辺のニセアカシアやくるみ類などは伝染源となるので注意する。また、発病果は見つけ次第摘み取り、土中に埋める。

炭疽病に対し、ベフラン液剤25は効果がないので、例年発生が見られる園地では使用しない。また、発生が多いところや多発が懸念される場合はナリアWDGを選択する。

(6) モモシンクイガ対策

産卵が続いているので、無袋栽培では、「8月末」まで毎回モモシンクイガ防除剤を使用する。

被害果は見つけ次第、摘み取り7日以上の水漬けなど適切な処置をする。ももなし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

(7) ハダニ類対策

ハダニ類の発生種を確認し、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は、1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。

殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。ただし、ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは、作用点と同じ薬剤なので合わせて年1回以内の使用とする。

サンマイト水和剤とバロックフロアブルは、リンゴハダニだけの、マイトコーネフロアブルは、ナミハダニだけの適用なので、薬剤の選択には十分注意する。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬 剤 名	年使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
オマイト水和剤	1回	○	○
ダニサラバフロアブル	2回以内	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○
ダニゲッターフロアブル	1回	○	○
スターマイトフロアブル	1回	○	○
ダニコングフロアブル	1回	○	○

○：適用する、×：適用しない

(8) クワコナカイガラムシ対策

発生が多いところでは、8月中旬（成虫の産卵前）にバンド巻きを行う。被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋し被害の軽減を図る。

(9) 収穫前落果防止剤の使用

早生種の熟度の進みは、ほぼ平年並みと見込まれる。なお、落果防止剤の散布時期は、農協等の指導をもとに適期に散布する。

ア ストッポール液剤

ストッポール液剤 1,000倍（展着剤不要）は、未希ライフときおうでは8月10～15日ころ、つがるでは8月15～20日ころに単用散布する。使用回数は1回、10a当たり散布量は350～400ℓとする。

ストッポール液剤は葉から吸収されて効果を出すので、葉に十分かかるようにし、葉摘みは散布4～5日後から始める。なお、散布後7日間は収穫できないので注意する。

極端な早期散布や2回散布、着色促進剤との併用などは、果実の軟化や油あがり著しく早まるほか、年によって裂果やつる元の腐敗などが多くみられるので、絶対に行わない。

イ ヒオモン水溶剤

ヒオモン水溶剤2,000倍（展着剤不要）は、きおうでは8月10～15日頃、つがるでは8月20～25日ころに単用散布する。使用回数は1回、10a当たり散布量は300～600ℓとし、薬液が葉先から滴り始める程度に、樹全体に散布する。葉摘みは散布当日から始めてもよい。散布後4日間は収穫できないので注意する。

なお、ヒオモン水溶剤を使用した果実の熟度の進みや日持ちは、無処理の果実と同等である。

(10) つがる等の着色手入れ

8月は気温が高いと予報されているので、果実の日焼けを起こさないよう注意する。

早くからの強い葉摘みは、鮮やかな色が着かないばかりか食味の低下につながるため、葉摘みはやや着色が進んだころから始める。

(11) 恋空・未希ライフの収穫

収穫始めは平年並みからやや早いと見込まれ、黒石中心で恋空が8月15日ころから、未希ライフが8月27日ころからである。

早生種は、熟期が揃わないので地色、着色を見て2～3回くらいに分けて収穫する。

着色を待ちすぎて、収穫が遅れると軟質化など品質低下につながるため、果肉の熟度に合わせて適期に収穫する。

樹上選果作業時に見落としした変形果や病虫害被害果などは山選果で取り除き、良品出荷に努める。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油あがり早くなるため、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

(12) 徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊り

高温・晴天が続く場合は、果実の日焼けを起こさないように、徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊りなどは控える。

病害虫の発生源を少なくし、薬剤の到達と日光の透過をよくするために、黄色品種でも不要な徒長枝を切り取る。

また、果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので、支柱入れや枝吊りを行う。

(13) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットが発生しやすいので下表によりカルシウム剤の果面散布を行う。

カルシウム剤は、直接果実に付着するように散布する。なお、樹勢の弱い樹や高温時あるいは干ばつ時の散布は、薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(14) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症がみられたら、下表により葉面散布用の精製硫酸マグネシウム（グリーントップまたはグリーントップ70）を7～10日おきに単用で散布する。散布は症状の進行が止まるまで1～4回程度行う。

なお、苦土欠乏は、土壌の酸性化が原因なので、土壌診断を行い自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

資材名	マグネシウム 含量	水100ℓ当たり 使用量
グリーントップ	16%	2,000 g
グリーントップ70	23%	1,400 g

(15) 乾燥対策

土壌が乾燥状態にある場合は、苗木や若木を主体に1㎡当たり200程度をかん水する。また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(16) 風害防止対策

台風等による強風に備え、防風網やわい性台樹の結束などについて点検し、補強や取り替えを行う。また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害、雪害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

3 一般作業

- (1) 腐らん病対策
- (2) 草刈り
- (3) 極早生種の収穫
- (4) 鳥害防止対策

4 今後の作業予定

- (1) 見直し摘果
- (2) 「8月末」の薬剤散布
- (3) 早生種の収穫
- (4) すず斑病・すず点病対策
- (5) 支柱手直し
- (6) 草刈り
- (7) 風害防止対策

次回の「りんご生産情報」第10号は8月23日(水)発表の予定

7月15日～8月15日まで！「見直し摘果」強化運動期間

決め手は、適正着果！

— 樹上選果推進期間（8月下旬～収穫期） —

美味しいりんごを届けよう！

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合、ラベル等の記載事項を読み、それぞれの農薬に定められている使用回数、使用時期、使用濃度を厳守し、使用状況を記帳する。使用回数については、含まれる成分によって制限されるので、同一成分が含まれる剤の総使用回数を守る。また、使用者の責任で最新の「農薬登録情報」を確認する。

農薬の使用前には、防除器具が洗浄されているかを確認するとともに、使用後は、十分洗浄する。

なお、薬剤の年間使用回数は、収穫後から翌年の収穫までの1年間に使用できる回数である。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。
～青森県農薬危害防止運動実施中（5月1日～8月31日）～

《 《 お知らせ 》 》

県予察ほの「モモシンクイガの発生情報」、「りんご黒星病、斑点落葉病の発生推移」は、アップルネット (<http://www.applenet.jp/>) の「アップル農場、病虫害情報、りんご・特産果樹の病虫害発生・防除情報」で提供しています。
また、「アップル農場・りんご・生育速報」には「つがる」の熟度が掲載されています。
ご利用ください。

《 《 参観デーのお知らせ 》 》

りんご研究所（黒石市）	9月 7日（木）	9時～16時
	～8日（金）	9時～15時

りんご研究所県南果樹部（五戸町）	9月13日（水）	9時～16時
------------------	----------	--------

詳しくは、産業技術センターりんご研究所のホームページ (<http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=1141>) をご覧ください。

熱中症予防には、こまめな休憩と水分の補給をしっかりと行いましょう！

農業機械事故が多発しています！農作業安全を心がけましょう！

地域ぐるみで放任園の発生防止と解消に努めましょう！

連絡先 : りんご果樹課生産振興グループ
電話番号 : 017-722-1111 代表
 内線 5094, 5092
 017-734-9492 直通